

本人のニーズと特性に応じた 多層的な修学支援

2019/11/14 (木) 専門テーマ別セミナー【ニューロダイバーシティ】
筑波大学人間系／ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター
准教授 佐々木 銀河

【ホームページ】 <http://dac.tsukuba.ac.jp/shien/>
【facebook】 <https://www.facebook.com/UTsukubaosd>
【Twitter】 <https://twitter.com/UTsukubaosd>
【E-mail】 sgalaxy@human.tsukuba.ac.jp



自己紹介

資格等

- 博士（障害科学），臨床発達心理士，保育士

経歴

- 筑波大学大学院人間総合科学研究科障害科学専攻
博士後期課程 修了
- 現在は、筑波大学DACセンターで障害学生支援に関する
実務責任者を担当
- 特に、筑波大学に在籍する発達障害の診断または傾向のある
学生への相談・支援のほか、研究活動を行う

研究・実践テーマ

- 児童福祉施設職員に対する組織行動マネジメント
- 知的・発達障害のある人を支える支援技術の開発・実装
- 発達障害の診断または傾向のある大学生の修学支援

筑波大学における各種相談窓口



総合相談窓口

学生生活でちょっと困ったことがあったら相談できる

何でも相談窓口

先生や友達も利用できる ☎029-853-8430(学生プラザ)

※春日キャンパスにもある ☎029-859-1207(春日)

ダイバーシティ (旧：ダイバーシティ推進室)



- ・男女共同参画
- ・LGBTの学生の相談



☎029-853-8504

アクセシビリティ (旧：障害学生支援室)



- ・修学に関する相談
(履修・授業・試験等)



☎029-853-4584

キャリアサポート (旧：キャリア支援室)



- ・就職情報の提供
- ・福祉就労等の相談



☎029-853-8444

保健管理センター精神科 学生相談室



- ・生活面の相談
- ・発達、精神障害の診断



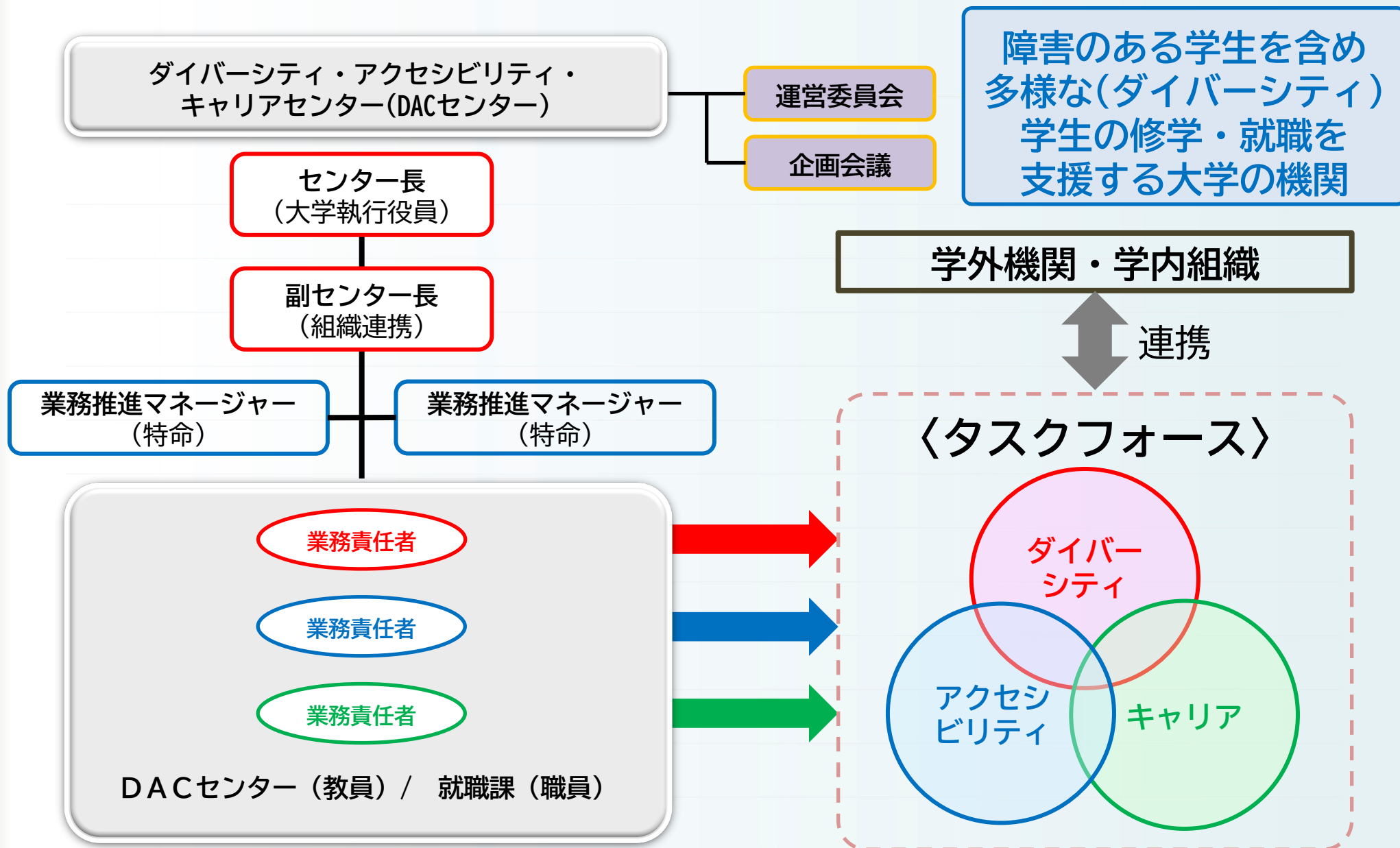
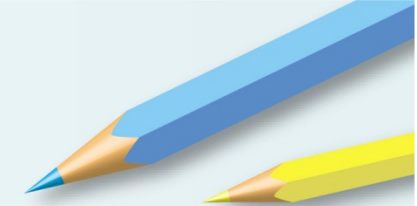
☎029-853-2415

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア(DAC)センター



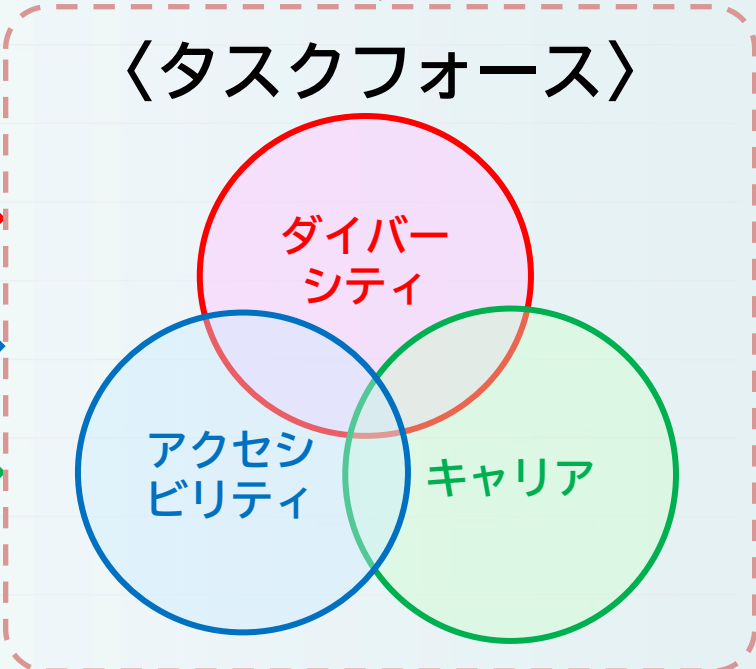
筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

DACセンターの概要



障害のある学生を含め
多様な(ダイバーシティ)
学生の修学・就職を
支援する大学の機関

学外機関・学内組織



発達障害学生支援（RADD） プロジェクト



筑波大学 DAC センター
発達障害学生支援
プロジェクト

Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

さまざまな**特性（カラー）**をもった学生が豊かな
学生生活を送れるよう支援を充実させるプロジェクト



【ホームページ】 <https://dac.tsukuba.ac.jp/radd/>

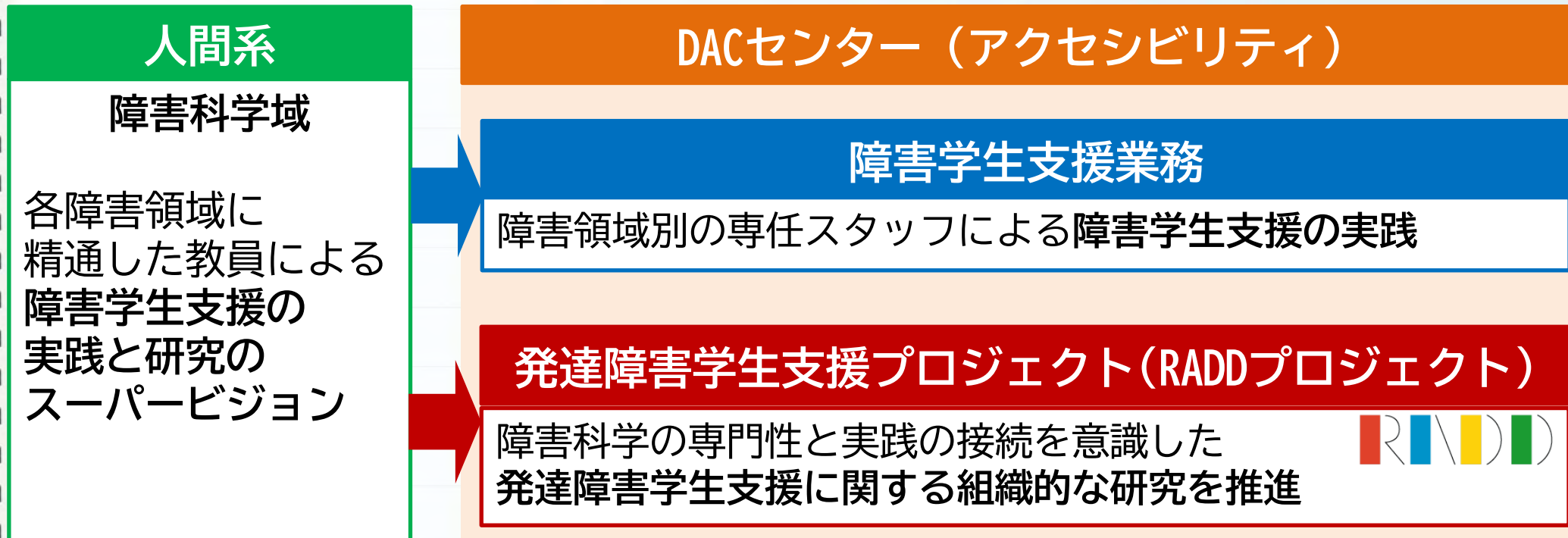


発達障害学生支援（RADD）プロジェクト

DACセンター（支援実践担当）と人間系（研究担当）による
発達障害学生支援に関する実践・研究プロジェクト
2015年度より開始し、現在は5年目（第二フェーズ）

【ビジョン】

様々な特性（カラー）をもった学生が豊かな学生生活を送れるようにする



大学における合理的配慮と支援モデルの最適化に基づくニューロダイバーシティの実現

<2018~2021年度：日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究（A）【代表者：竹田 一則】>

多様な発達特性を有する学生への支援・社会参加を加速するための基盤的研究の実施

諸外国における「発達障害」から「脳の多様性（ニューロダイバーシティ）」へのパラダイムシフトに伴い日本の現状に最適化させたモデルを構築するための研究を学内外の研究者と協働して実施

発達障害学生支援に関するエビデンスの蓄積

全国的な課題に対応した研究

エビデンスに基づく研修


筑波大学 DAC センター
発達障害学生支援
プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

日々の実践に基づく研究

研究成果の学内実装

他大学等に対する研修・相談対応

全国の他大学教職員を対象とした
発達障害学生支援に関するFD/SD拠点

他大学教職員の発達障害学生に対する
対応能力を向上するFD/SD研修等を開催
他大学からの個別相談にも対応

筑波大学の相談機能の強化

筑波大学内における発達特性に関する
アセスメント機能の実装

学生の修学上の困難性に応じて
発達障害傾向や知的能力を客観的に評価する
個別の心理教育的アセスメントを実施
専門のアセッサーの養成

多様な発達特性を有する学生に対する
支援人材教育拠点

<2018~2020年度：文部科学省 教育関係共同利用拠点> 実践の相互発展

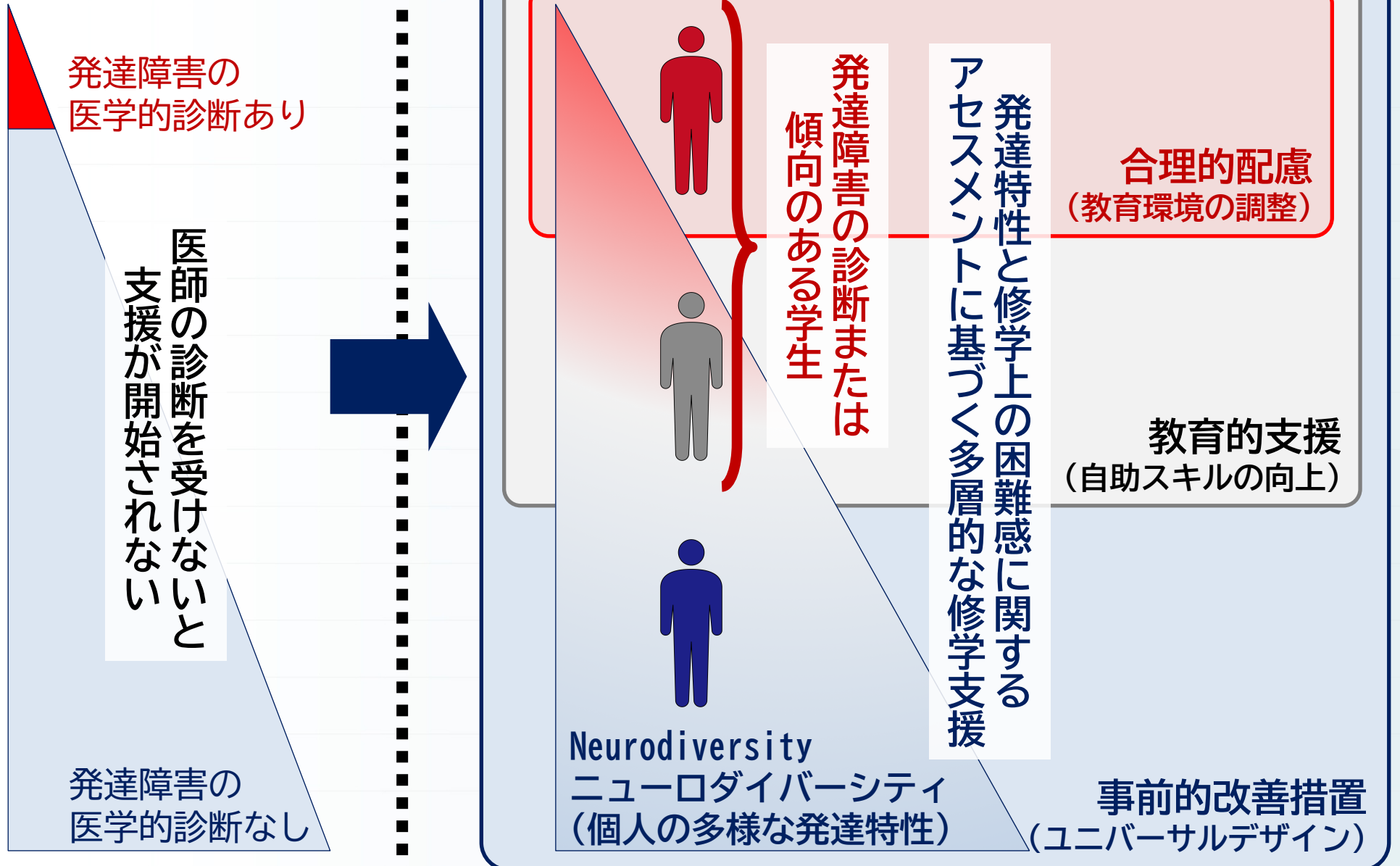
多様な学生のパフォーマンス最大化に向けた
心理教育的アセスメント機能の実装

<2019~2021年度：機能強化経費 機能強化促進分>

筑波大学における発達障害学生支援

医学モデル

障害の社会モデルに基づく修学支援



発達障害の
医学的診断あり

医師の診断を受けないと
支援が開始されない

発達障害の
医学的診断なし

障害の社会モデルに基づく修学支援

発達障害の診断または
傾向のある学生

合理的配慮
(教育環境の調整)

教育的支援
(自助スキルの向上)

発達特性と修学上の困難感に関する
アセスメントに基づく多層的な修学支援

Neurodiversity
ニューロダイバーシティ
(個人の多様な発達特性)

事前的改善措置
(ユニバーサルデザイン)

そもそも発達障害とは？

自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder : ASD)

- 対人コミュニケーションの困難 (相手の気持ちの理解が苦手など)
- 興味・関心の偏り (予定外の出来事への対応が苦手など)

注意欠如・多動症 (Attention Deficit Hyperactivity Disorder : ADHD)

- 不注意 (物忘れが多い、複数の作業ができないなど)
- 多動性 (じっとしてられないなど)
- 衝動性 (考える前に突発的に行動するなど)

限局性学習症 (Specific Learning Disorder : SLD)

- 読みの困難 (文章のどこを読んでいるのかわからなくなるなど)
- 書きの困難 (板書を書き写すのに時間がかかるなど)
- 計算・推論の困難 (基本的な数字や記号、図表が読み取れないなど)

生来的な中枢神経系の障害

- 生まれつき脳内のネットワークにおいて特定の情報のやりとりが上手くいかないため、物の捉え方や感じ方が他者と異なる
- 外見上からは判断しにくく、個人差が大きい
- 「性格」の問題と誤解されやすいが、本質的な特性は変わらない

ニューロダイバーシティ (neurodiversity)



© DANDA

発達性協調運動障害 (DCD)

プランニング, 運動の困難
追跡やバランスなどの協調の困難
空間認識の弱さや筋緊張

算数障害

数概念や計算の困難

読字障害 (ディスレクシア)

読み, 書き, 綴り等の言語の困難
非線形思考への関心

脳の多様性

組織化, 記憶, 集中,
時間, 管理, 知覚,
系列化の困難
聞くスキルの弱さ
他者の気づきなしでは
自己効力感の低下や
不安, 抑うつをもたらす

集中力の不足
被転導性

光, 音, 触覚, 温度に対する
過敏/鈍感性
会話や言語の困難

自閉スペクトラム症 (ASD)

社会的コミュニケーションの困難
興味・関心の偏り
想像性の違い

トゥレット症候群

音声・運動チック

注意欠如・多動症 (ADHD)

衝動性や気分の波
多動性, 低欲求不満耐性
不注意や過集中

発達障害を”疾患”とみなす「医学モデル」からの転換
発達障害は”全ての人間の多様な脳特性における差異”とみなす「社会モデル」の考え方
”定型”に近づけることを支援の目的とせず、1人1人のニーズに即した支援を基盤とする

ニューロダイバーシティの歴史



ニューロダイバーシティの発起

- オーストラリアの社会学者Judy Singerにより1988年に提唱
- 母親と娘がアスペルガー症候群で、Singer自身も自閉スペクトラム

ニューロダイバーシティ運動

- 1990年代に自閉症当事者・家族によって始まった社会運動
- 自閉権利運動 (Autism Rights Movement) にもつながる
- 反治療的 (anti-cure) の視点で、障害は個人の問題ではなく、社会構造の問題により生じるという主張
- 後に自閉症当事者だけでなく、ADHD、ディスレクシア、統合失調症等にも運動が派生

未だ論争が尽きない概念

- 治療・介入は必要か？
- 障害が不明瞭になるのではないか？



脳の多様性を活かした教育・支援



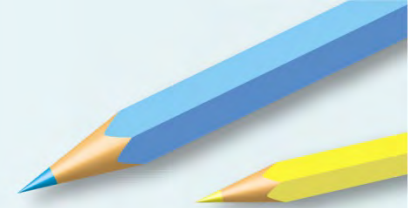
トーマス・アームストロング

- アメリカの教育研究家
- 脳の多様性の8つの原則

「本人を周囲に合わせる」
ということも大事だけど
「周囲の環境を本人に合わせる」
ことも同じくらい大切

1. 人間の脳は機械ではなく生態系に似ている
2. 人間も人間の脳も、能力の連続体のどこかに位置する
3. 人間の能力は所属する文化の価値観で決まる
4. 障害があると見られるか、才能に恵まれていると見られるかは、生まれた場所と時代で決まる
5. **人生で成功する鍵は、まわりの世界のニーズに脳を適応させること**
6. **人生で成功するには、個性的な脳のニーズに合わせてまわりの世界を修正することも必要（ニッチづくり）**
7. ニッチづくりには、個性的な脳をもつ人特有のニーズに合う職業や生き方の選択、支援ツール、支援者など人生を豊かにする手立ても必要
8. 積極的なニッチづくりは脳に直接働きかけ、ひいては周囲に適応する能力を高める

多様な発達特性を有する学生支援



二次アセスメント
(心理・知能検査)

合理的配慮の調整
配慮依頼文書の作成

ラーニングサポート
(LS)ルームの利用

合理的配慮 (教育環境の調整)

スタディスキル
コーチング

学生グループ活動
キャリア支援活動

支援技術の
体験・貸出

マイメモ
(my memo)

教育的支援 (自助スキルの向上)

一次アセスメント
(修学上の困難評価)

Learning Support
Book

発達障害
啓発マンガ

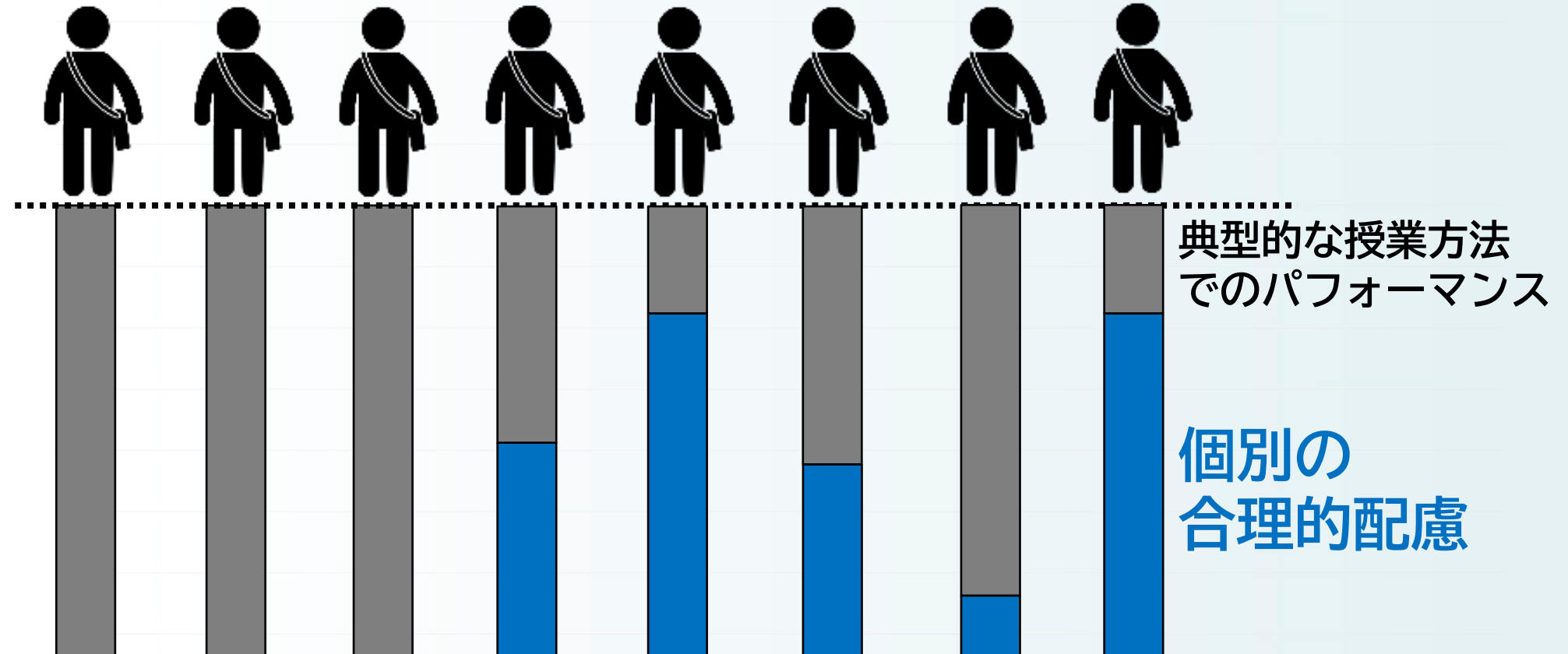
Neurodiversity
ニューロダイバーシティ
(個人の多様な発達特性)

授業を介した
理解・啓発

事前的改善措置 (ユニバーサルデザイン)

障害の有無によらない環境づくり

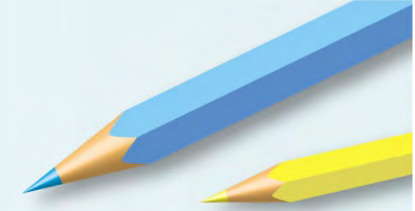
公平に参加できる状態



事前的改善措置（≡ユニバーサルデザイン）

（不特定多数の障害学生を想定した環境の整備）

Learning Support Book(LSB)



【LSBの特徴】

- 発達障害のある方がもつ独自の視点や経験に関する情報を収集
学業や生活に役立つ情報を配信
特に発達障害学生に有効な
ハイテク・ローテク支援技術
(Assistive Technology)
に関する情報を掲載
- “障害”ではなく”ニーズ”表記
「障害」のラベルを基本的に
用いないデザイン
医学的診断に抵抗がある学生
でもアクセスしやすい
- 大学生のサポーターが作成
学生目線での情報配信が可能

Learning Support Book

日本語 | ようこそゲストさん | MY本棚 | 0冊

全文検索 | 検索

カテゴリ

- 全てのカテゴリ
- 会員の方へ
- ノート・メモの取り方
- 試験対策・レポートの書き方
- タスク・スケジュール管理
- 忘れ物を防ぐ方法
- 勉強のやる気・集中力アップ
- 学業と趣味・生活の両立

シェア 82 | ツイート | LINEで送る | B!ブックマーク

新着ブック

表示切替

1-5件/5件

- 忘れ物を防ぐ方法
- レポートの書き方
- 集中力アップ
- 試験勉強の対策
- 会員の方へ



授業中のノートの取り方

支援アプリ編 ~スマートペン(Livescribe3)~



何ができるの？

- ・デジタル内蔵型ボールペン。
- ・連携アプリ「Livescribe+」をインストールし、Bluetoothで接続したスマホやタブレットに筆記した内容や音声を送信できる。
- ・写真やテキストを追加できる。
- ・録音しながら筆記でき、再生時に書いていた部分がリンクする！
- ・iphone、Android 対応。値段：25,000 円程度。



実際にはどう使ってるの？

- ・授業で重要点を再確認している時などに、メモを取りながら先生の話を録音する。
- ・復習するときは、アプリを開いてデータ化されたメモを読みながら、録音した音声を聞いてみる。
- ・メモし忘れた箇所があれば、アプリで打ち込んで情報を付け足し、テスト対策ノートを完成させる。

参考URL

公式 HP (<http://www.livescribe.com/ja/smartpen/l3/features.html>)

授業中のノートの取り方

支援アプリ編 ~Metamoji Note~

何ができるの？

- ・タッチペンでタブレット上に手書きをするメモアプリ。
- ・無地や方眼紙、罫線を選び、ペンの太さや色を変えながらメモしていく。
- ・PDF の読み込みやメモの書き足し、写真等の添付もできる。
- ・有料版は、録音しながら、聞きたい箇所を選んで頭出しも可能。
- ・iphone、Android 対応。
無料（有料版は 800 円前後）。



実際にはどう使ってるの？

- ・授業中の先生の話を録音しながら、重要だと思った時だけメモをする。
- ・授業が終わってから、録音した話を聞き直し、必要ならメモを上書きしてノートを整理する。
- ・PDF 資料（授業のレジュメや資料など）にマーカーを引いたりメモを直接書き込める。

参考URL

<http://product.metamoji.com/ja/anytime/function.html>

目次・デジタル

目次・テキスト

目次・付箋リスト

全文検索

≡

AND OR

検索

2

/12

移動

📖

▶

◀

⏪

⏩

🔍

🔍

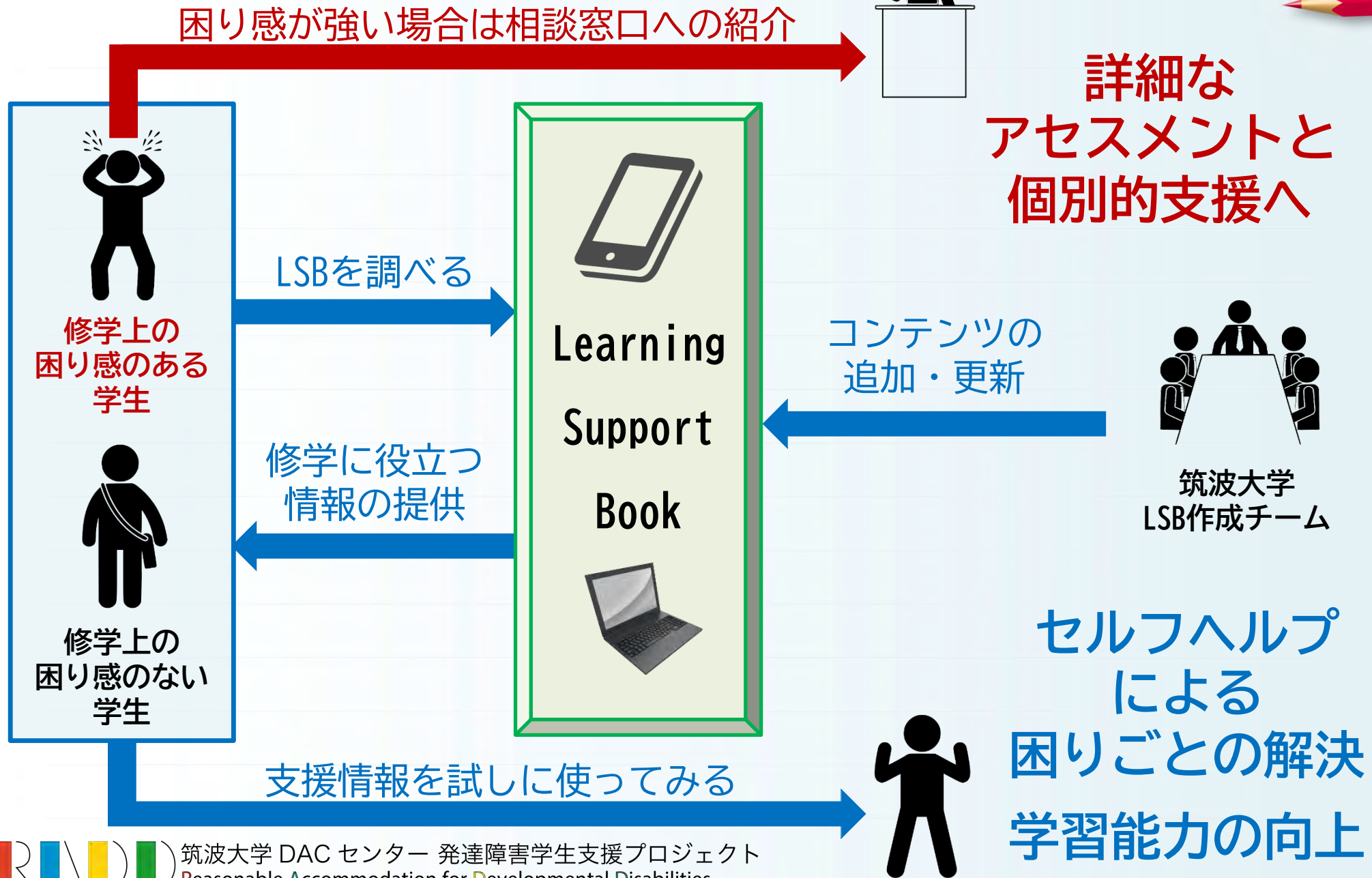
📏

✍️

📄

?

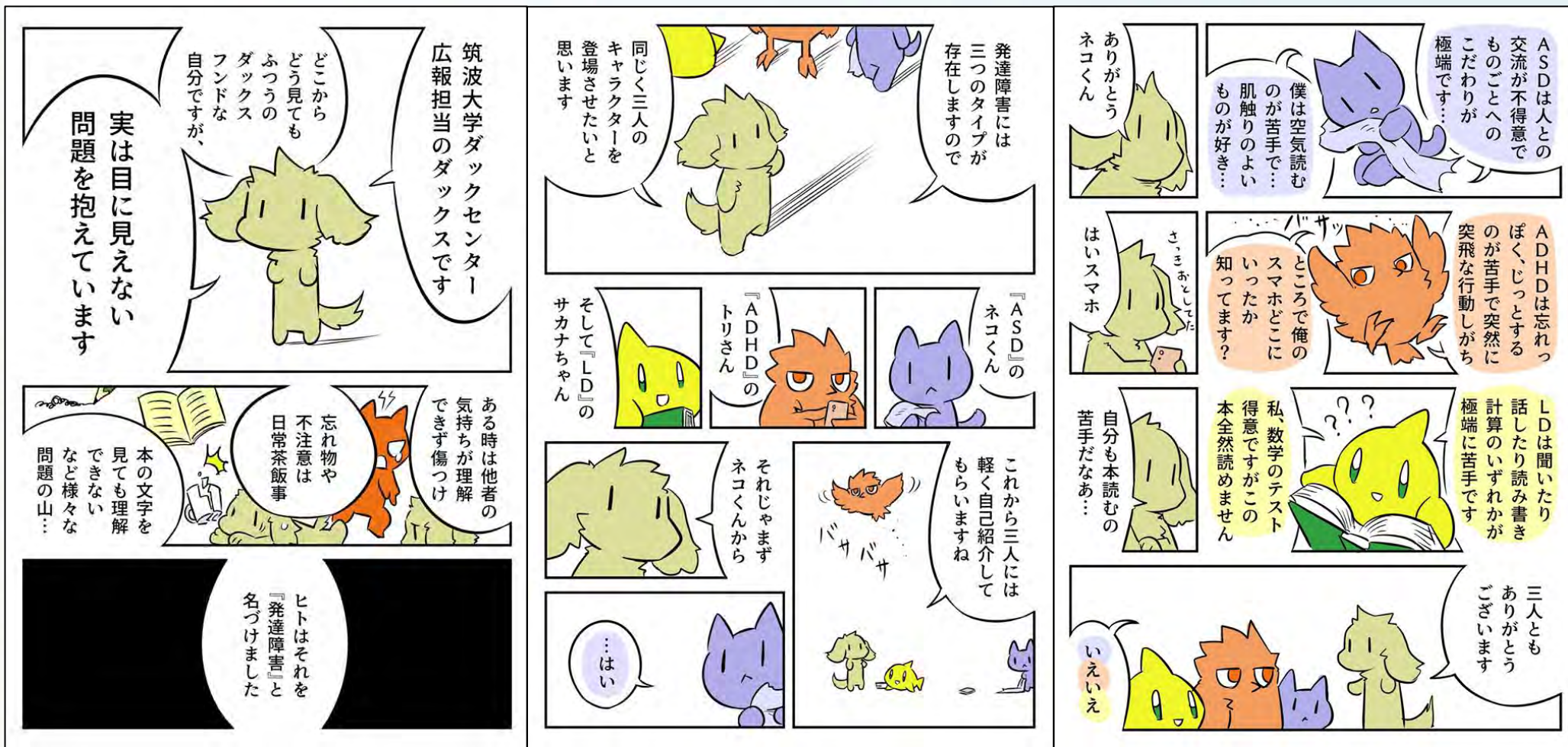
LSBを活用した修学支援



マンガを通じた理解・啓発活動



発達障害当事者の職員によるマンガを定期的にSNSへアップ



多くの人に啓発するため、発達障害啓発マンガはCC0 1.0ライセンスを適用
発達障害啓発マンガは自由に複製・印刷・再配布・改変OK！



マンガでアドボケイトPJ



『あなたをマンガで伝えるプロジェクト』

やること

まずあなたにインタビューをします

インタビューでは主に←の事を聞きます

漫画のラフ画を作りますので修正点があればお伝えください

ラフ画に問題がなければ完成版を作成します

完成した漫画はあなたが誰かに自分のことを伝えたい時にご活用ください

障害名と特性
苦手なこと
ASD ADHD LD

得意なこと
興味関心のあること

周りの人にしてもらえると良いこと

この言葉使いもう少し簡単にしてくれますか?

ぎょい 御意

紙 5枚ほど Pdf テレテレ

なんでこういうことを始めたんですか?

障害を言葉で説明するのはすごく難しい

だから自分の特性や必要な配慮をパッと漫画で周りに伝えられたら素敵だと思うからです

目的

自分に必要なサポートを自分で周りに説明する手助けになれば幸いです

『セルフアドボカシー』って言うみたい

アボカド?

注意

筑波大学DACセンターを利用する学生が対象となります

描きやすい漫画のスタイルがあるので修正の要望に沿えないこともあります

対象 DAC

また急いで作成できないこともありますのでご了承ください

ピア・チューター養成講座



学部生向け授業「障害学生支援技術」

- 障害学生への支援に関心のあるサポート学生（ピア・チューター）を養成する2日間の集中授業
- 視覚障害、聴覚障害、運動・内部障害、発達障害の障害別に授業
- 2019年度より発達障害ピア・チューター養成講座を開講
 - ・ 発達障害とニューロダイバーシティの考え方に関する講義、支援技術の使い方などをレクチャーし、発達障害当事者の体験を聞くことで多様性を理解する

<1日目>	
10時～	【講義】 発達障害の概論 発達障害学生支援の概要
11時～	【演習】 発達障害のある学生に役立つ 支援技術の説明・体験
12時30分～	【昼休憩+ミニゲーム】
13時30分～	【講義】 ピア・チューターの役割 LSBの説明、作成方法
14時40分～	【演習】 学生生活の困りごとに関 するグループワーク
16時30分	終了

<2日目>	
10時～	【講義】 発達障害当事者の体験談
11時～	【演習】 発達障害特有の困りごと に関するグループワーク
12時～	【昼休憩】
13時～	【演習】 発達障害の疑似体験
14時40分～	【演習】 学生同士の関わり方 グループワーク
16時30分	終了



発達ピア・チューターの役割



社会で活躍する
発達障害者の
参画と協働

多様な特性をもつ
学生同士が相談
できる場づくり



発達障害当事者レビュアー (レビュアー約40名)

発達障害のある大学生や社会人が
LSBのコンテンツを「外部査読」
発達障害当事者の視点から
LSBの内容に評価・コメント
レビュアーに謝金支払

LSBの充実
による情報還元



学生グループ活動 (発達ピアチューター21名)

発達障害学生を含めて、学生生活の
困りごとや解決策のアイデアを出し合う
学生同士での困りごとの共有・共感
他の学生の視点・経験を学ぶ
汎用的なアイデアはLSBへ還元
学生同士のナチュラルなサポートへ

【2：グループ活動運営補助】

査読係

作成済コンテンツ
の有用性を
ユーザー視点で
評価・コメント

校閲係

誤脱チェック
リンク更新
レイアウト調整

記事作成係

新しいアプリや
テクニックなどの
紹介原稿作成

動画制作係

各アプリや
テクニックの
使い方動画を制作

【1：だれでも空いてる時間でできる発達障害学生支援（LSB作成）】



凸凹を活かせる人材を育てる授業



大学院共通科目「脳の多様性とセルフマネジメント」

- 哲学、理学、社会工学、情報学、生物学、心理学、障害科学、医学、看護学、体育学、芸術学、図書館情報学など多様な専門の大学院生48名・聴講生7名の計55名が2日間の集中授業に参加
- チームメンバーの強み（凸）を組み合わせ、誰かの弱み（凹）を補うような新事業・商品を考える「凸凹アイデアソン」を実施
- 例：コミュニケーションが苦手な学生向けの新事業『絶対にしゃべってはいけない交流会』の企画



自校でできるユニバーサルデザイン



大学全体の教育環境整備

- 物理的なバリアフリー化
- 全学的な学習補助システムの導入
 - ・ 学習管理システム (LMS等)
 - ・ 音声認識システム (UDトーク等)
- 全ての学生への基本的な学業スキル向上に関する支援
- 啓発的な授業科目の設置 (例: 新入生オリエンテーション、キャリアデザイン)

個々の授業での伝え方の工夫 (学びのユニバーサルデザイン)

- 口頭だけでなく、視覚的な資料を最初から使う
- 5W1Hを明確にした全体指示をする
- 重要なポイントの時にはトーンを変えたり、ちょっと間を置いて、学生が注目してから伝える
- その場で聞きそびれても思い出せるように、配布資料など学生の手元に残るようにしておく

1人の障害学生にあると良いことで、他の学生にもあると良い場合
障害の有無に関わらず利用できるように最初から設計しておく

支援の意思表示の困難

単位取得困難

初回相談

発達障害診断

支援開始

学生本人が
困らないと相談
に来ない

”障害”の
スティグマによる
医学的診断への抵抗

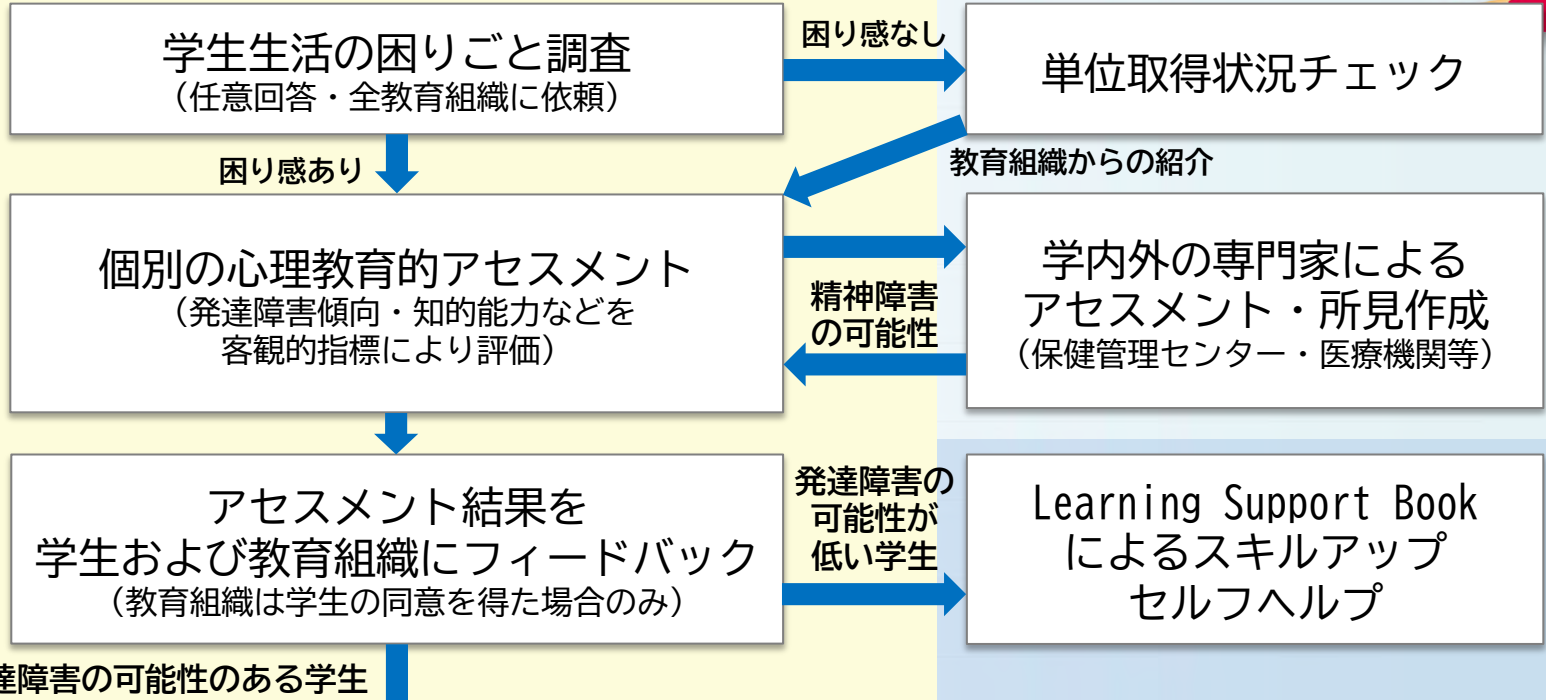
修学上の困り感を学生本人が
感じない、医学的診断に
抵抗がある場合は相談窓口
に自発的に来談することが困難
支援を受けられない

発達障害の医学的診断の
有無に関わらず
修学上の困難感に関する
「アセスメント」が重要

発達特性アセスメント／支援プロセス

**DACセンター
アセスメント機能**

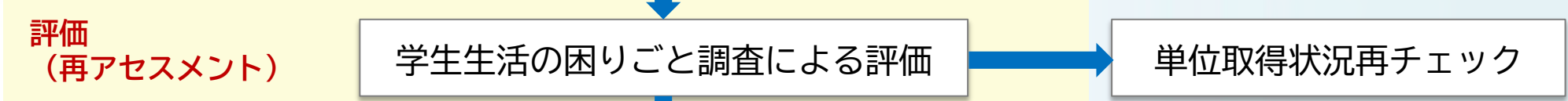
- 発達特性のアセスメントに関する専門性を有する「アセッサー」を試験的に研修・運用
- 合理的配慮の提供に必要な根拠資料の作成と学生の特性理解促進を担う
- 困りごと調査や単位取得状況からニーズの高い学生をスクリーニング
- 個別の心理教育的アセスメント実施
- フィードバックで特性理解を促進



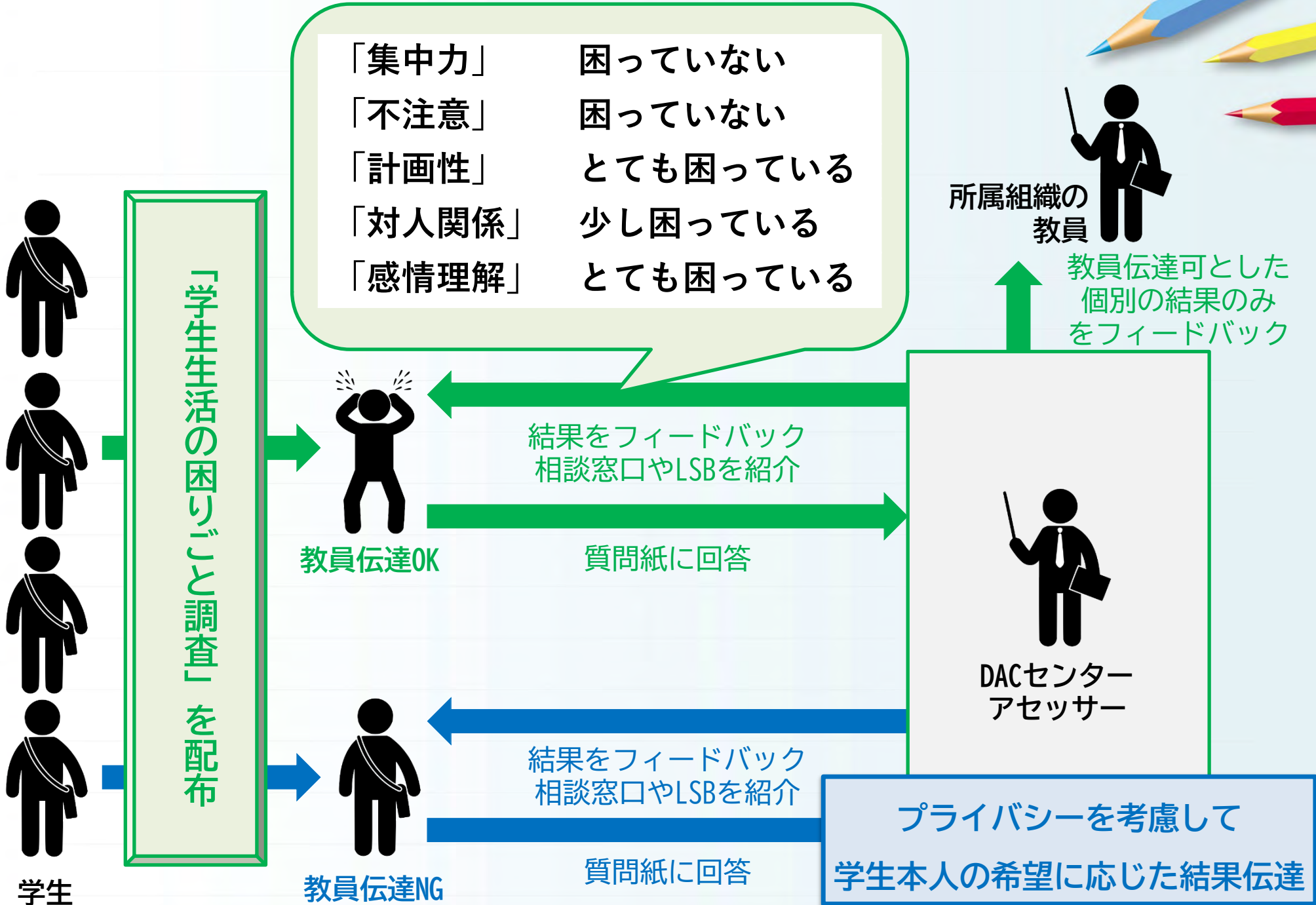
DACセンター 発達障害学生支援機能

- 合理的配慮の調整
配慮依頼文書の作成
- スタディスキル
コーチング
- 支援技術の
体験・貸出
- ラーニングサポート
ルームの利用
- 学生グループ活動
キャリア支援活動
- マイメモ
(my memo)

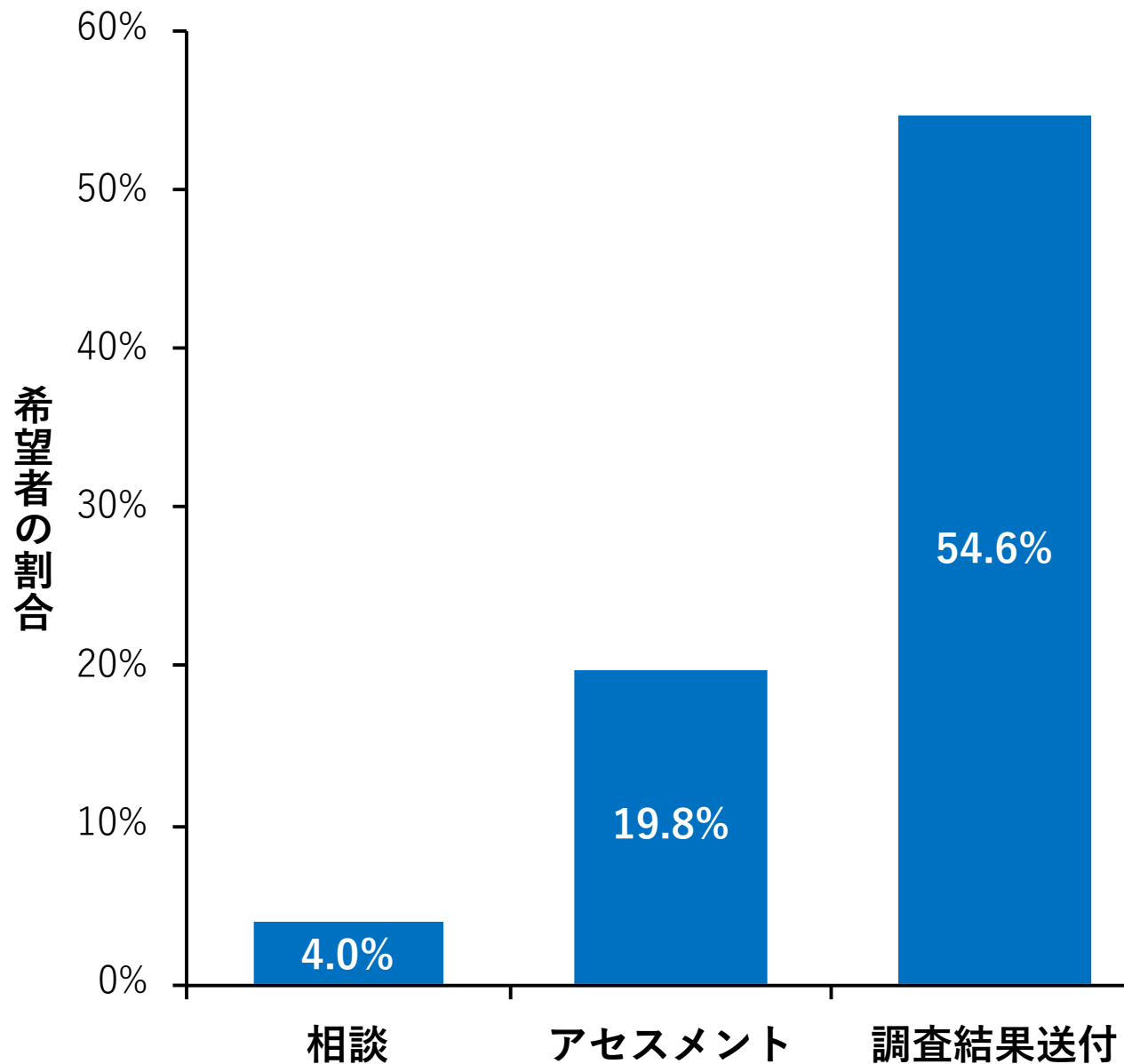
個別の心理教育的アセスメント等から得られた障害の程度に関する根拠資料および発達障害学生の個々のニーズに応じてアレンジメント



特性レベルでの修学上の困りごとの”見える化“



相談部署への足場かけとしてのアセスメント



2018年度学生生活
困りごと調査の結果
(N=1868)

大学生活で困っても
「相談をしてみたい」
学生は約4.0%

「アセスメントを
受けてみたい」
学生になると約19.8%

個別のアセスメント
など“自分を知ること”
が相談の足場かけに
なるケースもある

自校でできる修学上の困難感評価



単位取得状況・教育組織での状況確認

- 各学部学科等により、必修科目等のキーとなる科目が存在
- シラバスや科目担当教員から情報を収集して、重点的にチェックすべき科目を知っておく
 - ・ 実験、実習、演習、共通科目、月曜1限授業など
- 各学部学科や専攻の教員にも重点的にチェックすべき科目や確認事項を共有しておく
 - ・ 必修科目未取得者、低単位取得者への個別面談
 - ・ 個別面談時のチェックポイント（落とした理由、面談時の振る舞い）
 - ・ 個別面談時における質問紙の活用（ASD/ADHD困り感質問紙等）
 - ・ 情報共有のルールと学生からの同意取得方法
- 担任等の学生と関わる機会の多い教員との連携は特に

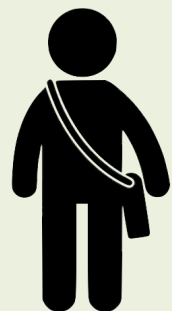
専門部署・機関と教育組織の連携

- 学生のどのような特徴が活動制約をもたらすか、第三者的に評価ができる部署・機関等を探す、つながる、創る

教育的支援と合理的配慮の違い



学生本人



教育環境（教職員など）



自助スキルの向上 （教育的支援）

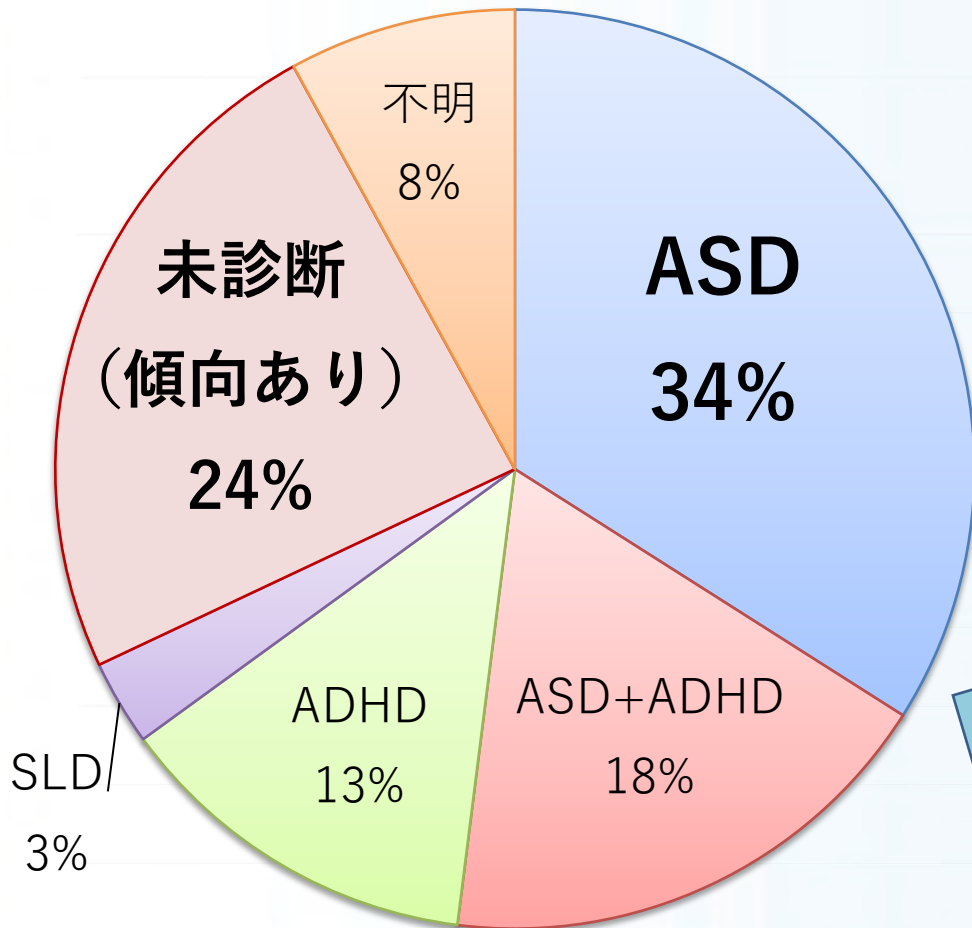
- アセスメントによる発達特性の把握
- 支援技術の体験・貸出
- 学生同士のグループ活動
- スタディスキル・コーチング
 - ・ 時間管理支援
 - ・ レポート、論文の作成支援
 - ・ 学習方略の支援 など
- キャリア支援・カウンセリングの紹介

教育環境の変更・調整 （合理的配慮）

- 教員による指示伝達方法の変更・調整
- 提供する資料内容の変更・調整
- 受講方法の変更・調整
- 支援機器の利用許可
- 休憩室の確保
- 成績評価方法の変更・調整 など
 - ※成績評価基準は変更できない
 - ※障害者差別解消法に基づく

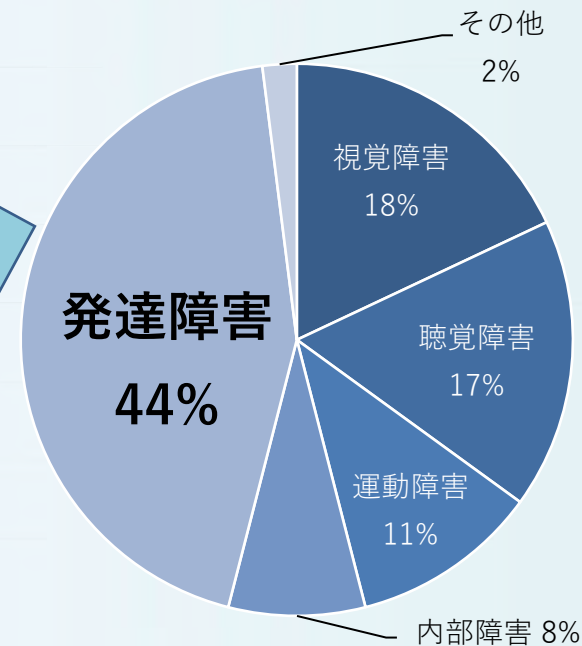
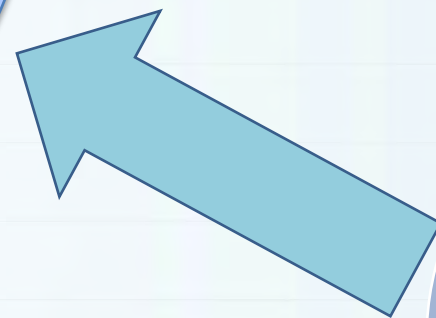
発達障害の診断または傾向のある学生への修学支援

DACセンターを利用する発達障害の診断または傾向のある学生の割合



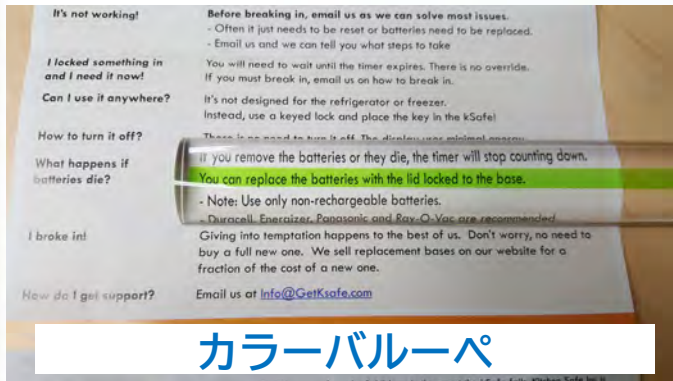
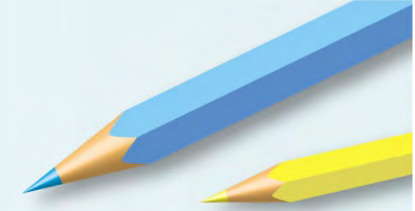
発達障害学生の診断内訳
(H28年4月)

- 約**66**名の学生が利用 (2019年5月時点)
 - ▷ アセスメント実施のみを含めると約100名弱
- 約半数が**ASD**の診断
- 次いで、**未診断の学生が24%**
 - ▷ すべてアセスメント等により発達障害傾向ありとの情報がある学生
- 精神疾患を併せもつ学生は約50%



ASD：自閉スペクトラム症
ADHD：注意欠如／多動症
SLD：限局性学習症（学習障害）

支援技術の体験・貸出



カラーバルूप



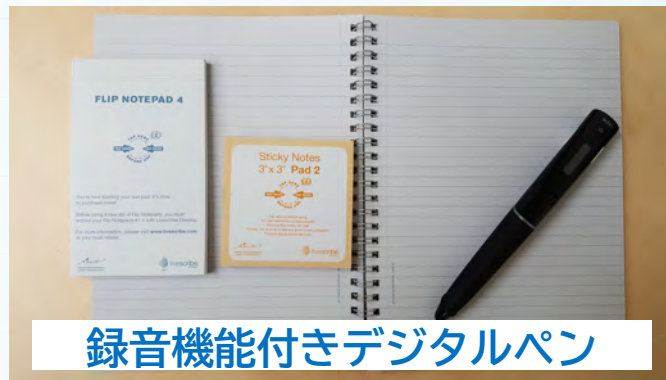
紛失防止タグ



ごほうびボックス



ホワイトノイズマシン



録音機能付きデジタルペン



各種タイマー



ノイズキャンセリング



卓上スケジュール

支援技術の詳細な情報は「Learning Support Book」に使い方を含めて掲載

簡単な情報はTwitterでも配信



学生グループ活動

多様な発達特性のある学生同士が集まるグループ活動

- 自分のこと・他人のことを知る（自己理解・他者理解）
- 困った時の対処法や工夫をシェアする（対処法の発見）
- お互いに話せる人を見つける（友人・コミュニティづくり）

学生生活エンパワメント グループ



【内容】
学生生活で困っていること、
悩んでいること、疑問に思うことを話し合う
「工夫」や「解決策」を共有することで、
学生それぞれの解決策の幅を広げる

発達障害当事者 グループ



【内容】
自身の発達障害の特性について話し合ったり、
障害に関する制度や仕組みを聞いたり、
発達障害に関する書籍の読書会などを行う
「発達障害」をよく知り、上手く使う



みんなでもくもくと 自分の作業をする会



【内容】
自分の作業（レポート課題、研究活動等）を
自分のペースで進める会
会話は特にないので、少人数での作業が
はかどる方や1人だとやる気のしない方向け

珈琲 ミーティング



【内容】
生活リズムを整えるのが苦手な人向けに、
朝からみんなでコーヒーや紅茶など好きな
飲物を飲みながら「朝活」をする
優雅な気持ちで30分間を過ごします

障害のある学生のキャリア支援



各種イベントの開催・機関との連携

- 「障害者手帳取得のメリット・デメリット」に関するグループ活動
 - ・ 基本的な知識を得る機会を用意
- 発達障害当事者によるキャリアセミナー
 - ・ 外部の発達障害当事者をお招きして、働く時に困ったことや対処法などを共有
- 発達障害の傾向がある学生向け就職活動準備講座
 - ・ 外部の就労移行支援機関の方をお招きして、「働くとは何か？」を考え、実際に職業体験をする2日間の講座を実施
- 障害学生と企業の交流会～Career×Disability～
 - ・ 障害学生の企画チームが主体となり、障害者雇用これから取り組む企業等と障害学生の交流
- 障害学生のOB・OGネットワーク
 - ・ 卒業・修了した障害学生のうち同意の得られた学生について、在学生在が卒業後のことを相談できるネットワークの構築を開始
- 障害学生向け・企業向けキャリア支援ガイドの作成
 - ・ 在学する障害学生向けと障害学生の雇用を考えている企業向けのガイドを公開
- 外部の就労支援機関との連携
 - ・ 外部のインターンシップ・プログラムを紹介（例：ACE, IBM）
 - ・ 障害者就業・生活支援センターに依頼して、出前講座の実施や相談連携



障害のある学生のキャリア支援



発達障害キャリアセミナー



障害学生と企業の交流会

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター、学生相談室連携 特別講座

就職活動準備講座2016

「働く」ってどういうこと?



発達障害があったり、コミュニケーションや人間関係に苦手さを抱えている学生のみなさんを対象とした、就職活動準備講座です。

同じ不安や困り感を抱える参加者の人たちと悩みを分かち合ったり、グループワークや仕事体験を実際に行ってみることで、仕事に活かせる自分の強みに気づくと同時に、在学中にどのような準備をしていくとよいかを考えるための講座です。貴重な機会ですので、是非参加を検討して下さい。

<こんな「悩み」や「望み」に効く講座です！>

- コミュニケーションに困り感を抱えている
- 就活や社会で働いていくことができるかとても不安
- 事務等の仕事を知りたい・体験したい
- 働く上で大切なマナーやスキルを知りたい
- 一緒にがんばれる仲間がほしい
- 卒業までにどんな力をつけていったらよいか知りたい...etc.

<プログラム>

日にち	時間	内容
事 前 面 談 (個別)		
1日目 2月20日 (月)	1コマ目	11時～12時 オリエンテーション/しゃべり場「働くって？」
	ランチタイム	12時～13時 休憩 ※ランチミーティング開催(自由参加)
	2コマ目	13時～15時 職場体験 その①
2日目 2月27日 (月)	1コマ目	10時30分～12時30分 職場体験 その②
	ランチタイム	12時30分～13時30分 休憩 ※ランチミーティング開催(自由参加)
	2コマ目	13時30分～14時30分 しゃべり場「自分に合った働き方って？」
事 後 面 談 (個別)		

就職活動準備講座



筑波大学 DAC センター 発達障害学生支援プロジェクト
Reasonable Accommodation for Developmental Disabilities

スタディスキル・コーチング

学業スキルの向上を目指す個別面談

- タスク・スケジュール管理方法のアドバイス
 - ・ 履修計画の作成
 - ・ レポートや課題の締切管理
 - ・ 研究の進捗管理
- レポートや課題の作成方法に関するアドバイス
 - ・ アイデアのまとめ方
 - ・ 関連情報の集め方
- 学習方法・方略に関するアドバイス
 - ・ 専門用語の覚え方
 - ・ ノート・メモの取り方



アセスメントで分かった特性に基づくサポート

- 自身の得意・苦手に応じた方略の探索

合理的配慮の検討プロセス



申請

- 本人からの支援申出（来室、メール、電話等）
- 対面での支援申し込み受付（情報開示の範囲を確認）

協議

- DACセンタースタッフが本人より支援ニーズの聞き取り、希望支援方針を確認
- 障害の状況を表す根拠資料の確認（必要に応じて）障害特性等のアセスメント

協議

- 本人からの支援ニーズとDACセンターからの提案に基づき、
教育組織（学類・専攻等）との協議 ※本人と教育組織の合意が得られるまで続く

合意

- （必要に応じて）配慮依頼文書の作成 → 可能であれば本人から教員へ手渡し

協議

- 教育組織を中心に合理的配慮の提供
- DACセンターでは（必要に応じて）個別面談の継続、他機関との連絡調整

建設的対話により決定



配慮依頼文書に盛り込む事項

機能障害・活動制約の記述

- 一般教職員でも分かるような表現で書く
 - 診断名だけでなく、活動制約も記述する
- 何を根拠にして判断しているかを記述する
 - 障害者手帳の種別・等級、適切な医学的診断基準に基づいた診断書
 - 標準化された心理検査の結果
 - 学内外の専門家の所見、高校等からの引き継ぎ資料

配慮内容

- 活動制約と配慮内容の関係性を記述する
 - 「口頭での説明を記憶することが困難なので、授業の資料配布をお願いします」

個人情報への取扱い

- 障害に関する事項は「要配慮個人情報」
- “取扱注意” はもちろんのこと、教職員内での共有範囲、他の学生から問い合わせを受けた場合の対応などを記述する

教育環境のアセスメント



合理的配慮による過重な負担の抗弁

- 大学等に過重な負担がなければ、必要かつ合理的な配慮を提供
 - 教育の目的・内容・機能を本質的に変更してはならない
 - 物理的・技術的・人的に実現可能性の低い配慮は提供困難
 - 費用・負担の程度が著しく高い配慮は提供困難
 - 大学の事業規模と比べて著しい程度の配慮は提供困難
- 教育の「本質的変更」に係る重要な指標
 - 3つの方針（AP, CP, DP）や授業のシラバス（成績評価基準、方法）
 - 担当教員の教育、指導方針
- 特に必修科目や実習系科目の場合は要確認

教育の本質に関する明確化の例



教育の目的・内容・機能	具体的な能力水準	合理的配慮の例
良好な コミュニケーション力	ディスカッションや議論に参加できる 口頭による指示を正確に理解することができる	ディスカッションや議論におけるルールを明記する 口頭指示のメモ、携帯端末による筆記を許可する
基本的な知識・技能 の修得 (読み書き・計算能力)	試薬の計算を正確に遂行できる 専門用語を用いてレポートを書くことができる	試薬の計算に計算機の使用を許可する レポートの書き方の例を参照できるようにする
実験手法の正確な遂行	実験器具を安全に操作して使うことができる	実験器具の使用手順をマニュアルにして示す

3つの方針やシラバス等を参考資料にして
「～ができる」まで具体化すると配慮内容も検討しやすい

建設的対話に向けたガイドライン

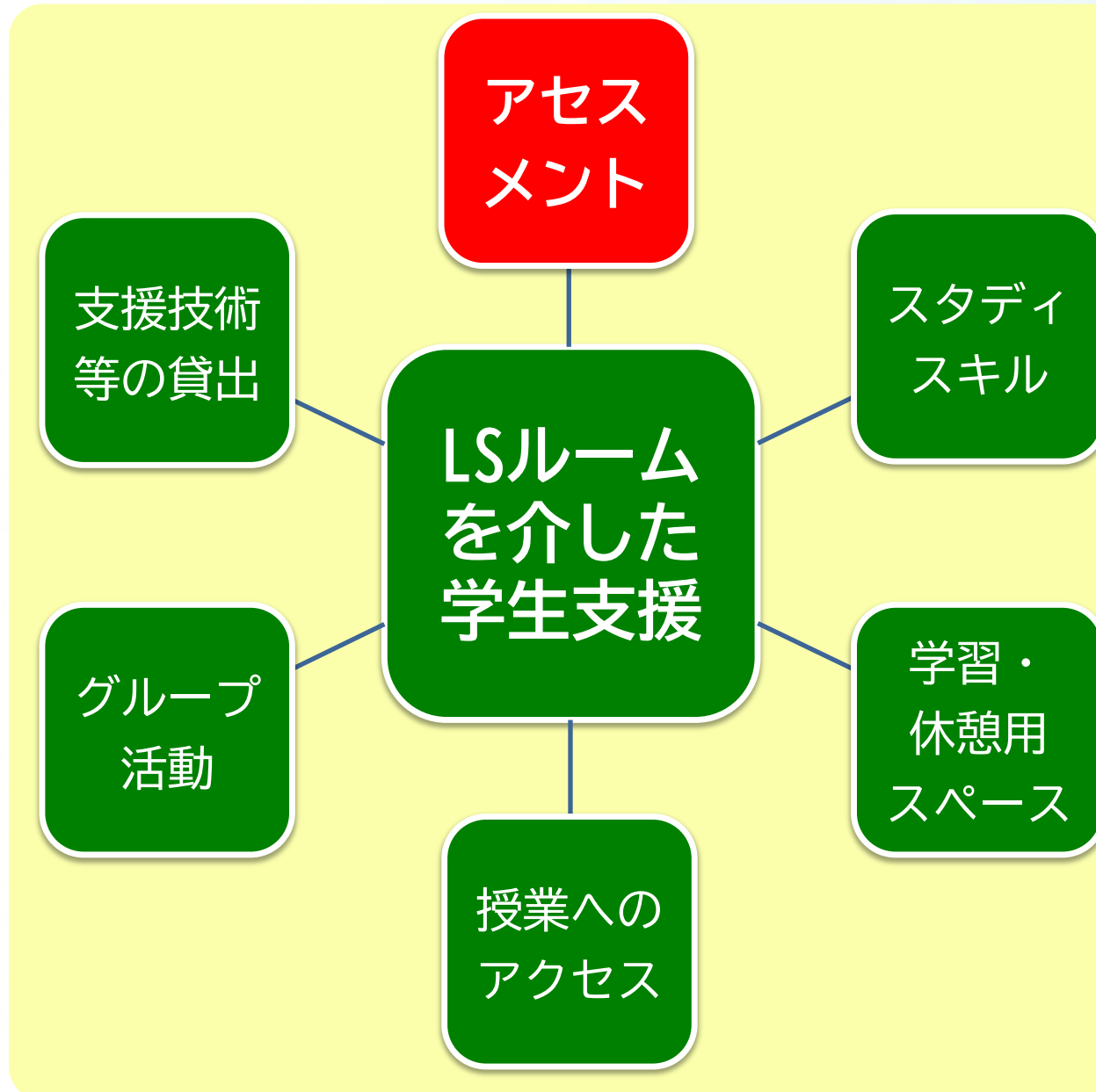
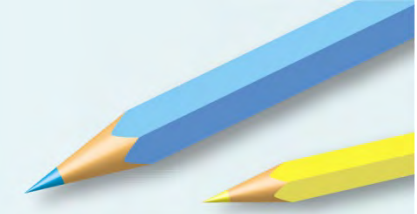


合理的配慮の調整に役立つ実践ツール

- 障害のある学生から合理的配慮の申し出があった際に、どのように教員と学生が建設的対話をすべきかを示したガイドライン（作成中）
- **学生と一緒に参照することを想定**
 - 教職員のみで使用すると差別的取扱いとなる懸念
 - 学生本人も「どのような考え方で合理的配慮が提供されるのか」知る権利がある
- **障害の程度に関する根拠資料（個人要因）や学部のシラバス等（環境要因）を合わせて確認**
 - 心理検査等で分かった苦手な程度だけで合理的配慮の内容が決められるわけではない
 - 教育の本質的変更該当しないかを確認する



ラーニングサポート (LS) ルーム



学生の修学を「場所」を通じて支援するための部屋



1人で学習・休憩できるスペース
授業後にホッと一息つける
各種支援技術も体験できる



発達障害や学生生活、
就職に関する書籍の閲覧・貸出
人目を気にせず、じっくり読める



これから先のニーズに向かって

大学の垣根を超えた対応ノウハウの共有

- 教育関係共同利用拠点事業
 - 「Learning Support Book」の他大学等への展開
 - 発達障害学生支援に関する相談ネットワークの構築
 - e-learning型研修コンテンツの作成
 - 発達障害学生の仮想事例動画
 - 他大学への講師派遣

高校・大学・就労の移行支援

- マイメモ (my memo) を通じた移行支援
 - 学生が得意、苦手、対処法を場を越えて共有するシステム

学生視点の支援のあり方の探求

- 障害学生当事者との建設的対話に向けた調査研究
- 学生スタディスキルサポーター養成プログラム

LSBの他大学等への展開

筑波大学で作成したLearning Support Bookを
他の大学の教職員にも試験配信（トライアル）

2019年08月時点で全国 **73** 大学等での利用

現在、大学教職員だけでなく
他大学の学生に直接LSBを配信できるよう環境整備中
進捗があればトライアル実施大学にご連絡致します



相談ネットワーク（RADDネット）



大学等の垣根を越えた支援・対応ノウハウの共有

- 教職員向けクローズ型SNS（RADDネット：仮称）を構築開始
 - 多様な発達特性を有する学生への支援・対応ノウハウを共有する
 - 各大学等の教職員が無料で参加可能
 - 全通信を暗号化する外部チャットサービス（slack）を活用

RADDネットでの取り扱い主要内容

- 各大学等の課題・取り組みの情報交換
- 発達障害学生の仮想事例検討
- e-learning型研修コンテンツの利用
- 各大学等での学生対応に関するコンサルテーション

参加方法（下記のサイトより申込）

- <https://jp.surveymonkey.com/r/raddnet>



発達障害学生の仮想事例動画

個人情報のないリアルな学生の仮想事例動画の作成

- 発達障害学生の事例は個人情報の関係で共有が難しい
- 筑波大学で支援を受けている学生の事例を加工して個人情報をなくしたリアルな仮想事例動画を作成する
- 教職員or学生向けの研修や授業等で活用



※有志の学生や教職員に撮影協力

e-learning型研修コンテンツの作成



- ・有識者（研究者、実務家等）による最先端の発達障害学生支援の研修プログラム
- ・多忙な教職員が自由に学習できるようにe-learning型コンテンツとして収録・配信

大項目（例）	中項目（例）	
社会的背景の理解	障害者差別解消法の理解	障害者雇用の現状と課題
	障害者関係法令の歴史	日本と諸外国における障害学生支援の国際比較
	ニューロダイバーシティの理念	障害の社会モデル
発達障害の基礎	自閉スペクトラム症（ASD）概論	限局性学習症（SLD）概論
	注意欠如・多動症（ADHD）概論	発達障害と二次障害（精神疾患）
発達障害学生の組織的対応	大学における発達障害学生への修学支援	教育の本質の明確化（コンピテンシースタンダード）
	大学における発達障害学生への就職・キャリア支援	授業における学びのユニバーサルデザイン
	大学における発達障害学生への生活支援	ピア・サポートによる発達障害学生支援
教職員による発達障害学生の対応	授業における発達障害学生への合理的配慮	専門別の発達障害学生の対応（医療系）
	レポート課題や論文作成が苦手な学生への対応	専門別の発達障害学生の対応（心理・教育・福祉系）
	タスクやスケジュール管理が苦手な学生への対応	専門別の発達障害学生の対応（理工系）
	指示伝達や理解が苦手な学生への対応	発達障害学生に役立つ支援技術
	事務手続きや電話での学生対応	学生との個別面談時の留意点
専門職による発達障害学生の対応	発達障害学生に対する心理検査の理解	合理的配慮の調整・検討プロセス
	心理検査に基づく根拠資料の作成	発達障害学生の自己特性理解

他大学への講師派遣



講義形式

- 障害者差別解消法の理解と組織的対応
- 発達障害とは
- 大学における発達障害学生の対応 など

講義・演習形式（ワークショップ）

- 合理的配慮検討フローの活用ワーク
- 発達障害学生へのアセスメント／支援ワーク
- 支援技術（支援機器）の活用ワーク
- 仮想事例の対応方法検討ワーク
- 得意・苦手に関する情報共有ツール（マイメモ）の活用ワーク
- 学生スタディスキルサポーター養成プログラム ※準備中
- 多数の仮想事例や実体験をもとに知識・技術を獲得

各大学等のニーズに応じてアレンジメント・フォロー

- 講師依頼対応後はRADDネットでのやりとり、LSBやガイドラインなど各種ツールを大学等に残していくことでフォロー

マイメモ (my memo)

～自己理解サポートアプリ～



キャリア相談

修学相談

心理相談

パソコンやスマホ、タブレットから
自分の得意・苦手なことを記録して
情報を伝えたい他の人だけに共有する

自己理解サポートアプリ

「マイメモ (my memo)」を開発・展開

自分の特徴をより良く理解して
他の人とのコミュニケーションに活かす補助ツール

マイメモの主な機能



筑波 学さん

自己管理促進ツールへようこそ！

気づいたことを登録 ✎

気づきの変化をチェック ✓

気づきをまとめて相手に伝えよう 💬

目標を決めて取り組む 😊

気づいたこと登録

気づいたこと ⓘ

例)聞きながら板書するのが苦手

アセスメントの結果や
教職員との面談
学生自身の気づきを
思いついた時に登録
一覧表にして
合理的配慮の提供や
エントリーシート作成に活用
言葉を気にする学生のため
「得意」を
「まあまあできること」
などラベル変更可能

得手

授業以外

細かいことによく気がつく

わ

不得手

授業中

提出物の期限を守るのが苦手

他

3日前に確認をする癖をつける

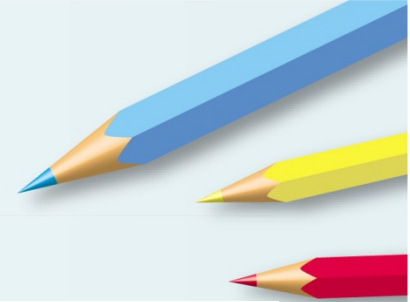
聞きながら板書するのが苦手

自

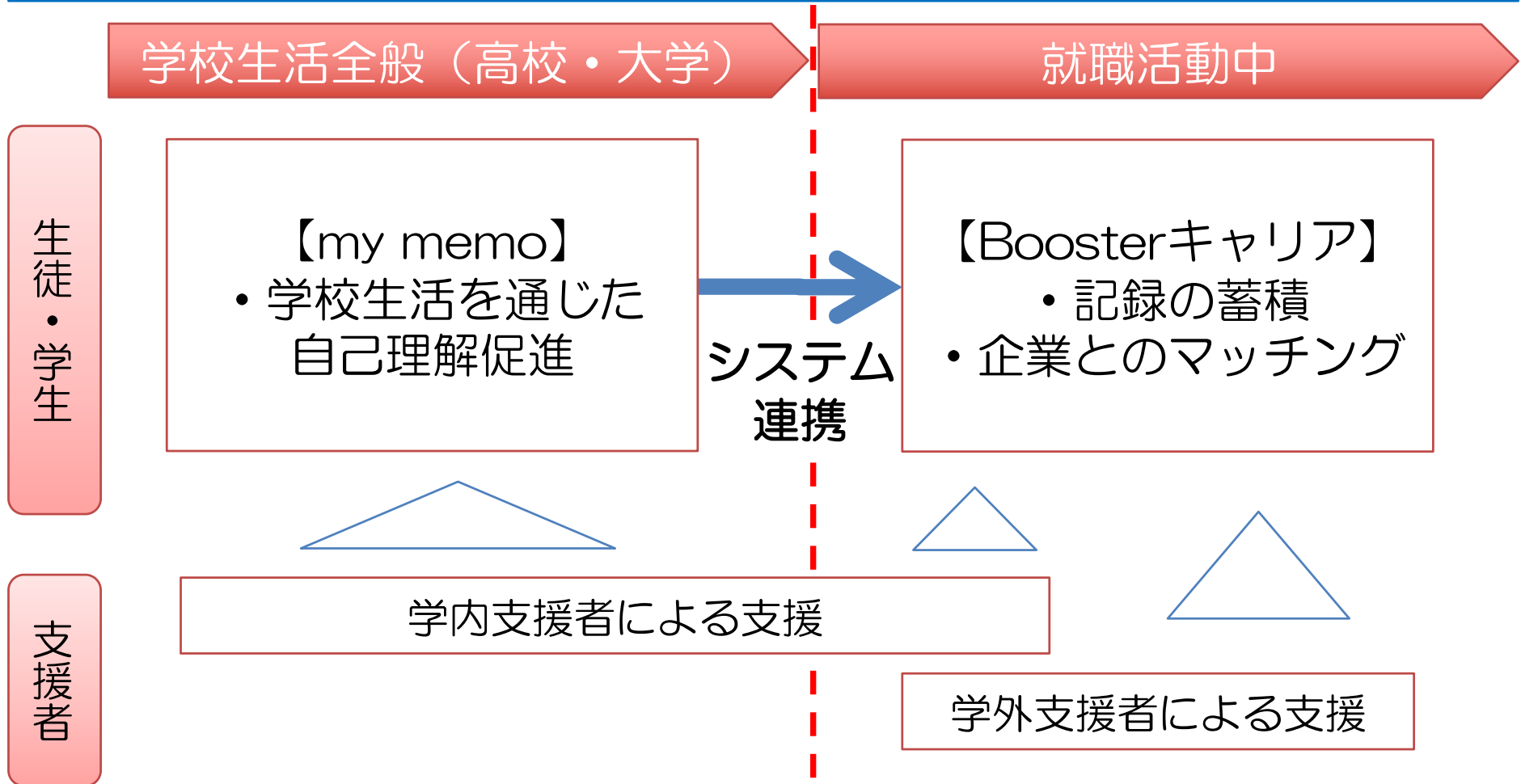
講義を録音して後で聞きながら書く



高校、大学から就職まで使えるツール



高校・大学から就職活動までの情報をICTツール連携で一気通貫！



支援の場、人を越えた本人中心の情報共有と引き継ぎ

発達障害のある高校生向け 大学生1日体験講座



- ★体験講座を通じて、大学生になる自分のイメージを具体化
- ★講座後も使用できるWEBツールを活用して対処法を獲得
- ★本人を中心とした情報連携によるシームレスな高大接続へ

高校生

大学進学

プログラム (10時~15時30分)

1 時限目	模擬授業 (発達障害と大学生活) ○講義形式で発達障害のある大学生の様子を知る ○文系・理系など自分に合った時間割を作成する ○ノート・メモを取る練習をする
2 時限目	筑波大生メンターによる大学生生活の体験談 ○大学受験・大学生活に関する素朴な疑問を聞く ○併行して保護者への大学での支援体制説明や受験相談を実施
3 時限目	自分の特性を理解・共有するアプリの説明・体験 ○講座後も使用できる「自分の得意・苦手を記録・共有できるアプリ (マイメモ)」の使い方を伝える
4 時限目	大学生になる自分の特性研究 ○自分の得意なことや苦手なことの対処法について、講座後も使用できる「Learning Support Book」を通じて考え、マイメモに登録する

茨城県教育委員会からの後援

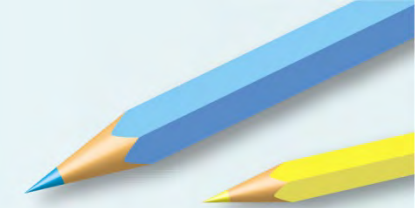
茨城県、東京都、埼玉県、
神奈川県などから
高校生12名が参加

全ての参加者から高い満足度

2020年冬にも開催予定



マイメモ大学トライアル（研究事業）



筑波大学が実施すること	各大学にお願いすること
<ul style="list-style-type: none">●マイメモ導入のご説明<ul style="list-style-type: none">・各大学にご訪問して、マイメモの主な機能や導入イメージをご説明します（15分～）	
<ul style="list-style-type: none">●学生周知用のチラシの作成<ul style="list-style-type: none">・お持ちしたサンプルのイメージで学生周知用のチラシ等を作成致します	<ul style="list-style-type: none">●学内での調整<ul style="list-style-type: none">・マイメモの導入の可否についてご検討ください・スモールスタートでOKです
<ul style="list-style-type: none">●講座実施日の日程調整<ul style="list-style-type: none">・参加される学生さん、筑波大のスタッフ、各大学の担当者の方の日程を調整します	<ul style="list-style-type: none">●参加学生の募集・会場の確保<ul style="list-style-type: none">・学生の募集、会場の確保をお願い致します・発達障害の医学的診断の有無は問いませんが、相談部署に繋がっている方が望ましいです・学生の人数は1名～でも対応検討します
<ul style="list-style-type: none">●マイメモ講座の実施<ul style="list-style-type: none">・筑波大学から各大学に講師を派遣します・1時間30分～2時間程度で1回で終わります・講座実施後に取得したデータの研究利用に関する依頼を行いますが、研究に協力しなくてもマイメモは他の参加者と同様に利用できます・研究協力者は講座後の遠隔フォローも行います	
	<ul style="list-style-type: none">●マイメモの使用<ul style="list-style-type: none">・各学生がマイメモを使用して、サポーターは気づきへのコメントをお願いします

障害学生当事者との建設的対話



令和元年度JASSOプロジェクト研究

- 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）との共同による研究事業
- 障害のある学生本人が、合理的配慮等の支援をどのように捉えているか調査研究を行う

今年度、各大学に調査協力依頼予定

- 障害のある学生に調査票を渡すだけですので、教職員の方の負担は最小限になるようにしております
- 調査結果は研究終了後、WEBサイトにて公表予定
- 今後、各大学で活用できる合理的配慮等の支援の有効性に関する学生を対象としたモニタリングツールの作成につなげていく

学生サポーター養成プログラム



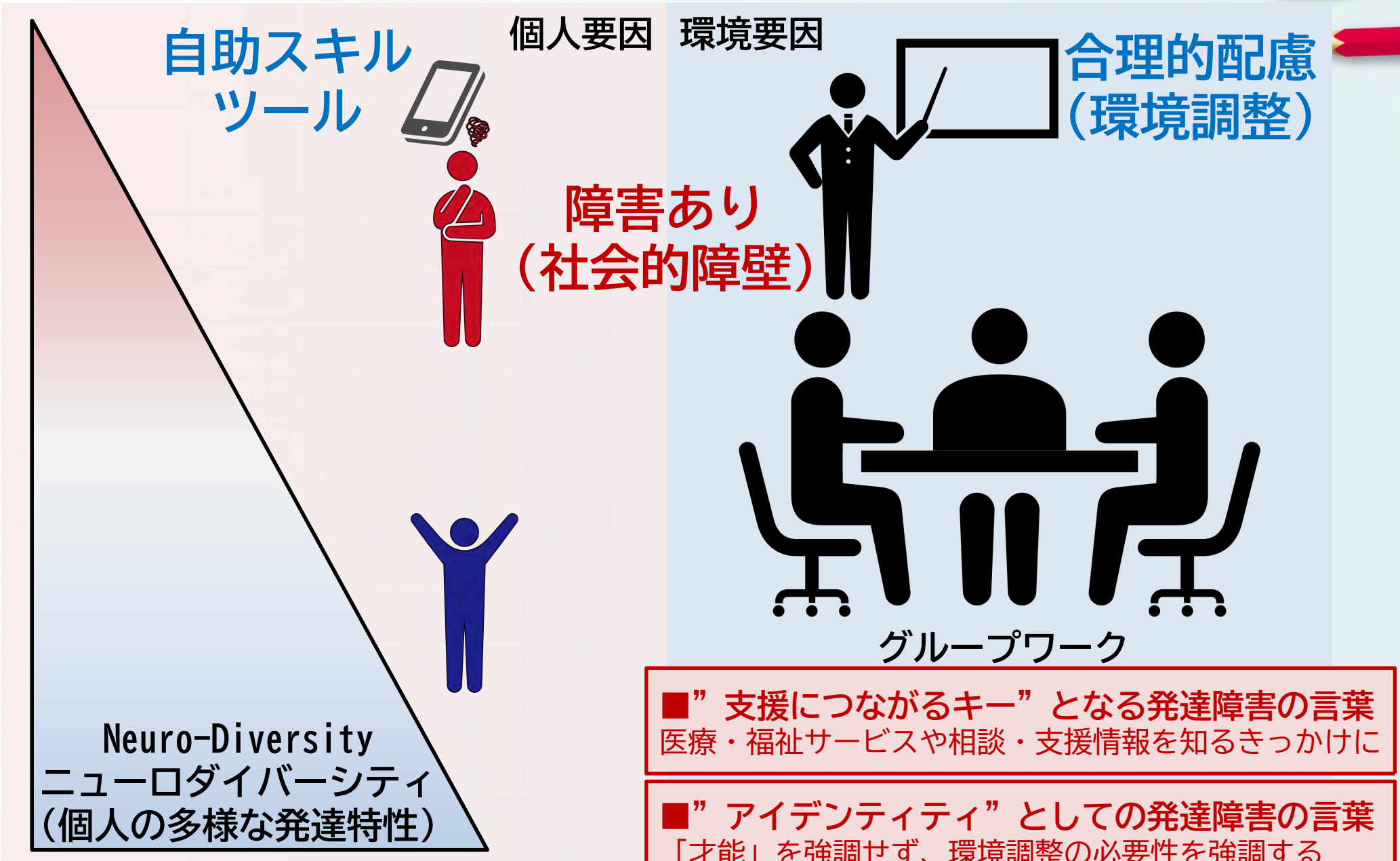
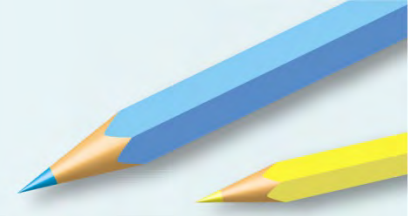
学びを支え合う学生を育てる

- 発達障害の有無に関わらず「学生生活での困りごと（学業・対人関係など）」は、学生同士で似ていることもある
- 1人1人の「違い」を理解して、学生生活をハック（対処）できるノウハウを学生同士でシェアできる学生を育てる

障害のない学生を対象としたサポーター養成

- 障害のない学生が、多様なニーズを抱える学生への関わり方を学ぶ学生サポーター養成プログラムを開発・他大学へ展開予定（研究事業の一環として試行実施）
- 1日の集中プログラムで仮想事例動画を活用して、学生生活の困りごとへの対処法をシェアするグループワークやLSBを活用した学業・生活スキルの向上を目指す

社会モデルに基づく発達障害の考え方



■ ”支援につながるキー” となる発達障害の言葉
医療・福祉サービスや相談・支援情報を知るきっかけに

■ ”アイデンティティ” としての発達障害の言葉
「才能」を強調せず、環境調整の必要性を強調する
「発達障害」の言葉で努力不足ではないと寄りかけられる